

方が話せるため、外国籍、特にブラジル人の園児が多いみよし保育園では、欠かせない存在となっているようでした。

みよし保育園では、多種多様なルーツを持つ園児たちを抱えながらも、お互いを認め合う環境づくりに、園全体で取り組んでいるところが印象的でした。

グローバルサマーツアー2014 ③坂田保育園

宇都宮大学教育学部4年

長尾 真弥

私たちのグループは、私立坂田保育園を訪問しました。

坂田保育園では、はじめに先生方から園の成り立ちや外国人園児の増加などについて、また保育の現状などについてのお話を聞きました。その後は、午睡から覚めた園児たちと一緒に、間近に迫っている運動会の練習をおこないました。

坂田保育園で私が感じたことは、日本人園児だ

けが在籍する一般的な保育園と何も変わらない、ということでした。先生方のお話や子どもたちとのかわり、園の環境など、特別「国際的」ということもなく、子どもに必要なことを、国籍に関係なく当たり前に行っていくという姿がそこにはありました。

「違い」を「日常化」する。当たり前のようで大変なこのことを、坂田保育園の先生方、子どもたちは実現しているのだと思いました。

グローバルサマーツアー2014 ④大泉西保育園

作新学院大学経営学部1年

行本 大誠

私のグループは、大泉町立大泉西保育園を訪問しました。

到着後、前半は、子ども達と交流するグループと先生方のお話を聞くグループに分かれ、後半は、それぞれが交代しました。先生方からは、日頃心がけていることや、保育で大変だと感じることなど話していただきました。国や文化の違いで食べさせられないものがある場合など、事前に保護者に聞いて対応することが大変だそうです。

交流する時間には、私は子ども達と触れ合ううちあることに気づきました。髪や肌の色の違う子ども同士で、一緒に楽しそうに遊んでいるのです。その光景を見て私は驚き、そして確信しました。ここで育った子たちは将来決して人を差別するようなことはなく、何事にも積極的に取り組み、協力し合える子になるだろう、と。

この夏、グローバルサマーツアー参加して、貴重な体験ができたと思っています。

進め 日本語教室

第8回



ー日本語教室担当半年の 学びからのちょっとした工夫ー

小山市立小山城東小学校

伊藤 佳之

4月、半年間の白鷗大学でのスペイン語内地留学を終え、希望した日本語教室の担当になり

ました。小山市立小山城東小学校には、27名の支援を必要とする外国人児童が在籍していま

す（平成26年10月23日現在）。今まで全く経験のない日本語教室担当になり、とても不安でした。しかし、周りには心強い先生方がたくさんいらしたので、その不安はすぐに払拭されました。平成4年度日本語教室開設当時の担当（現教頭）、前日本語教室担当の先生、小山市外国人児童生徒適応指導教室『かけはし』担当の先生と通訳の先生方、本校外国人支援の3名の先生方、そして、外国人児童へ大変ご理解のある校長先生と本校の先生方、さらには、指導している外国人の児童たち。今日までの約半年間、たくさんの先生方や外国人児童から貴重な学びをたくさん得ることができました。おかげで、毎日楽しく日本語教室を運営することができました。

冒頭でもお伝えしましたが、まだ半年の経験なので、まとまった成果や指導等はお伝えできません。しかし、この半年間の学びから獲得した、日本語教室運営にプラスになったちょっとした工夫をご紹介します。

■廊下の掲示は早口言葉が有効

かけ算九九や漢字など、子ども達にぜひ覚えてほしい内容の掲示物は、外国人児童にはほとんど関心がありませんでした。また、それらを唱えて日本語教室に入るようにさせたこともありましたが、やり方が雑になり、効果がありませんでした。そこでそれらを、教師がしっかり指導することにしました。代わりに、「早口言葉」を掲示したところ、取り組みの姿勢は全く違いました。難易度（レベル）も表示し、やる気をかき立てることに成功しました。今では教師が何も言わなくても、夢中になって何度も何度も



唱えています。

■日本語教室の時間割に、全員（もしくは複数学年）が集まる時間を確保する

水曜日の3校時に『みんなの時間』を位置づけ、日本文化に触れる時間としています（毎週ではなく必要な時に）。主に1から3年生の外国人児童と『かけはし』の児童と一緒に交流しています。これまで七夕飾り作りや七夕集会、学校祭の出し物の練習を行いました。

■外国紹介コーナーでは「隠す」がキーワード

多くの日本語教室には、外国の食べ物や建物などを紹介する掲示物があると思います。本校児童にとってただ掲示してあるだけでは、関心が長く続きませんでした。そこで、名称や由来などの肝心な言葉を厚紙で隠して掲示すると、児童は何度もめくってそれらを覚えようとしていました。

■個別指導の形態だけでなく一斉授業の形態も

学校での学習形態の基本は、黒板を使用した学び合いの授業であると考えます。それに慣れさせることも、日本語教室での大切な学習になります。そこで、複数児童を取り出す時は、黒板を使用した学び合いを行い、特に、発表の仕方を具体的に指導しています。一人の指導の時には、教師がもう一人の児童になって、時にはわざと間違って誤答時の対応の練習もしています。

